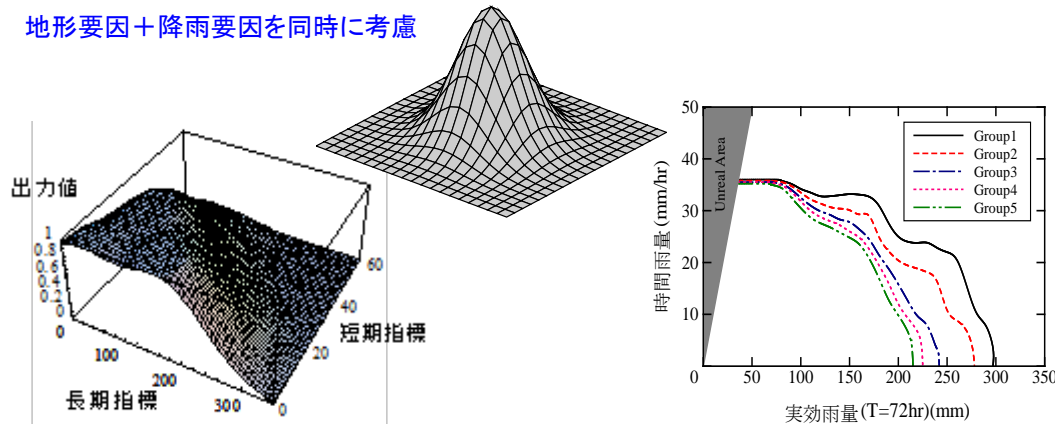


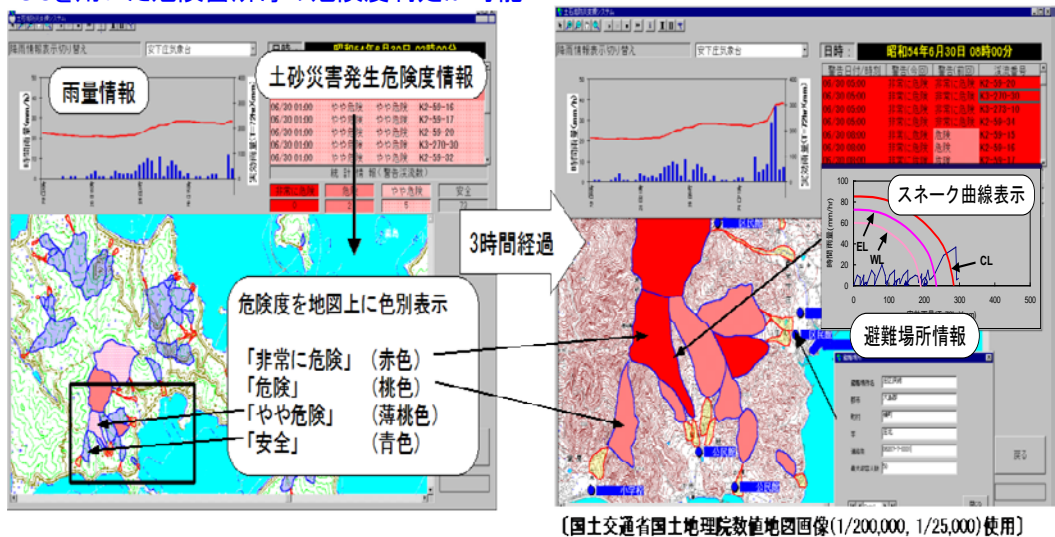
RBFネットワークを用いた設定手法の開発

地形要因+降雨要因を同時に考慮



土砂災害警戒避難支援システムの開発

GISを用いた危険箇所毎の危険度判定が可能



土砂災害の個別非線形発生限界線等の設定方法及びそれを用いた警戒避難システム

【発明の名称】「土砂災害の発生限界線、避難基準線及び警戒基準線の設定方法とそのプログラム及びその発生限界線、避難基準線及び警戒基準線を用いた警戒避難支援システム」

【出願人】有限会社山口ティー・エル・オー

【発明者】山口大学 名誉教授 古川 浩平

【実施先】中電技術コンサルタント株式会社

株式会社エイト日本技術開発

西日本技術開発株式会社

八千代エンジニアリング

株式会社北海道技術コンサルタント

大日本コンサルタント株式会社

株式会社ウェザーニュース

【概要】

土砂災害の発生限界線、避難基準線、警戒基準線等の設定方法に係わり、特に、斜面要因又は溪流要因を考慮した個別非線形の土砂災害発生限界線等の設定方法及びその個別非線形発生限界線等を用いた警戒避難支援システム。

土砂災害の潜在危険度に基づき分類したグループ毎の基本判別境界面を構築し、グループ間の基本判別境界面の相違から求めた潜在危険度の影響を用いて個別非線形発生限界線等を設定する、大きく2段階のステップを踏む設定方法。

潜在危険度の違いを明確に個別非線形発生限界線に反映させることが可能。

斜面毎或いは溪流毎の学習による判別境界面の構築を要さず、斜面要因又は溪流要因を考慮した個別かつ非線形の土砂災害発生限界線等を、精度よく且つ容易に設定可能。高精度な個別非線形発生限界線等を用いた信頼性の高い警戒避難支援システムである。